

令和7年度全国学力・学習状況調査に係る本宮市の結果

本宮市教育委員会

1 調査に関する概要

実施日	令和7年4月18日（木）	
実施校	小学校 7 校	中学校 3 校
調査学年	6 年生（269人）	3 年生（237人）
調査教科	国語、算数、理科	国語、数学、理科

2 教科に関する調査の結果

【現状の分析】 本市の平均正答率と全国・県との比較

(1) 小学校

<小学校>

小学6年 国語							
	平均	言葉の特徴・使い方	情報の扱い	言語文化	話す聞く	書く	読む
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5
福島県	65.0	78.9	59.6	80.4	61.7	67.7	56.4
本宮市	61.0	76.3	54.4	74.4	58.7	62.6	52.0

小学6年 算数						
	平均	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
全国	58.0	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
福島県	55.0	60.1	51.5	50.9	53.6	59.3
本宮市	51.3	56.1	47.3	48.8	49.7	55.7

(数値は全て正答率)

<小学校理科>

小学6年 理科					
	平均	エネルギー	粒子	生命	地球
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7
福島県	56.0	44.3	50.0	51.1	65.6
本宮市	52.0	43.4	46.5	44.3	61.6

(数値は全て正答率)

国語	平均正答率が全国平均を 7.8 ポイント、県平均を 4 ポイント下回っています。 内容別平均正答率において、知識・技能(1)「言葉の特徴・使い方」はほぼ全国平均並みです。一方で、その他の内容は全て全国を 5 ポイント以上下回っています。特に、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均より 8.7 ポイント下回っています。
算数	平均正答率が全国平均を 6.7 ポイント、県平均を 3.7 ポイント下回っています。 領域別平均正答率において、すべての項目で、全国平均及び県平均を下回っています。特に、B「図形」の正答率は全国と比べ 8.9 ポイントと下回っています。
理科	平均正答率が全国平均を 5.1 ポイント、県平均を 4 ポイント下回っています。 区分・領域別平均正答率において、すべての項目で、全国平均及び県平均を下回っています。 特に「生命」の領域においては、全国との差が 7.7 ポイントと大きく下回っています。

- 全体的に正答数が低い児童は少なく、正答数が多い児童も少ない傾向が見られます。ほとんどの学校で中間層に多く分布されている傾向が見られます。

【現状の分析】 本市の平均正答率と全国・県との比較

(2) 中学校

<中学校>

中学3年 国語							
	平均	言葉の特徴・使い方	情報の扱い	言語文化	話す聞く	書く	読む
全国	54.3	48.1			53.2	52.8	62.3
福島県	53.0	46.8			52.6	51.7	61.3
本宮市	53.0	50.1			53.0	49.7	60.8

中学3年 数学					
	平均	数と式	図形	関数	データの活用
全国	48.3	43.5	45.5	48.2	58.6
福島県	45.0	40.9	41.9	44.5	56.5
本宮市	43.0	37.5	38.4	44.8	55.6

(数値は全て正答率)

<中学校理科> ※5段階別IRTバンド別分布

中学3年 理科					
	1	2	3	4	5
全国	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2
福島県	4.5	28.8	43.1	18.2	5.4
本宮市	3.4	31.2	43.0	16.5	5.9

中学校理科 平均 IRT スコア

	平均 IRT スコア
全国	503
福島県	496
本宮市	496

IRTスコア：各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準とした得点で表示

IRTバンド：このIRTスコアを1から5までの5段階に区切ったもの（3が基準、5が最も高い）

国語	平均正答率が全国平均を1.3ポイント下回り、県平均と同じ結果となりました。 内容平均正答率においては、知識・技能の(1)「言葉の特徴・使い方」が全国・県を上回っています。思考・判断・表現等のA「話す・聞く」もほぼ全国平均と同じ結果となりました。
数学	平均正答率が全国より5.3、県より2ポイント下回っています。 領域別平均正答率において、昨年度同様、「数と式」B「図形」の定着率が低い結果となりました。(A：全国との差6ポイント、B：全国との差7.1ポイント)
理科	理科は、本市の平均IRTスコアは496で、県と同等でした。全国の平均IRTスコアは503という結果から、全国平均と比較してやや低い水準にあるという傾向が見られます。 IRTスコア分布の傾向（IRTバンドおよびパーセンタイル値）は中位層・中下位層の割合が比較的厚く、中上位層・上位層の割合が全国平均と比較して薄い傾向が見られます。

○ 全体的に小学校同様、正答数が多い生徒が全国・県に比べて少ない傾向が見られます。

3 児童・生徒質問紙の結果・考察

(1) 本市の児童（小学生）の状況

① ICT 活用に関する特徴（児童質問紙より）

項目	本宮市	全国	特徴
(18) 授業時間以外における、平日 1 日当たりの ICT 機器の学習利用（全く使っていない）	32.4%	25.4%	勉強のために ICT 機器を「全く使っていない」児童の割合が全国より高くなっていることから、授業時間以外での ICT 活用が少ないことが考えられます。
(28) 授業での ICT 活用頻度	27.9%	46.7%	授業で ICT 機器を「ほぼ毎日」使用した児童の割合が全国平均と比較して顕著に低く、学校での日常的な活用が少ない傾向が見られます。
(29-1) 文章作成スキル	37.5%	39.3%	ICT 機器で文章を作成できることへの自信は全国平均と同程度の結果でした。
(29-2) 情報収集スキル	48.5%	50.6%	インターネットで情報を収集できることへの自信は全国平均と同程度の結果でした。
(29-3) 情報整理スキル	21.3%	26.9%	ICT 機器で情報を整理するスキルへの自信は全国平均より低かったです。より高度な情報活用機会の不足が考えられます。
(29-4) プレゼン作成スキル	18.0%	38.6%	ICT 機器でプレゼンテーションを作成するスキルへの自信は全国平均より低かったです。表現活動の機会の不足が考えられます。
(30-7) 協働学習への効果認識	44.9%	46.3%	ICT を活用した協働学習への効果（友達と共有・協力する）についても全国平均に近い結果となりました。

(2) 本市の中学生（生徒）の状況

① ICT 活用に関する特徴（生徒質問紙より）

項目	本宮市	全国	特徴
(18) 平日の ICT 学習利用 (3 時間以上使っている)	5.5%	2.7%	勉強のために ICT 機器を「3 時間以上」使っている生徒の割合が顕著に高く、積極的に活用していることを示しています。
(18) 平日の ICT 学習利用 (全く使っていない)	21.8%	30.3%	「全く使っていない」生徒の割合は全国平均より低かったです。
(28) 授業での ICT 活用頻度	57.1%	53.2%	授業で ICT 機器を「ほぼ毎日」使用した生徒の割合が全国と比較して高く、学校現場で ICT が日常的に積極的に活用されていることがうかがえます。

(29-1) 文章作成スキル	88.6%	83.6%	ICT 機器で文章を作成する能力への自信は全国を上回っています。
(29-2) 情報収集スキル	94.9%	91.5%	インターネットで情報を収集する能力への自信は全国より非常に高かったです。
(29-3) 情報整理スキル	71.5%	63.3%	ICT 機器で情報を整理する能力への自信は全国を上回っています。
(29-4) プレゼン作成スキル	76.5%	76.6%	ICT 機器でプレゼンテーションを作成する能力への自信は全国とほぼ同等でした。

4 まとめと考察

本市の ICT 活用状況は、児童・生徒への個人端末活用と家庭での利用推進に対して、学校は積極的に取り組んでいることが伺えます。また、中学校においては、ICT 活用能力への自己評価も高く、教師からの手厚い学習支援も学習意欲の向上に寄与していると考えられます。しかし、小学校においては、ICT のより高度な活用スキルへの自信が全国平均よりも低いという課題が見られます。

ICT 機器が配備され、学校側が活用を進めようとしている状況は明確ですが、実際に児童・生徒がそれをどれだけ主体的に活用し、学習効果を実感できているかという点では、まだ改善の余地があると言えます。

より児童・生徒が日常的に活用していると認識できるぐらい、ICT を活用した協働学習の機会を増やしていく必要があると考えられます。

5 今後の対応策

○ 教師が「話す」授業から、教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業への転換について授業改善を図っていきます。

- ・（学び出す）「つかむ」段階において、単元（授業）全体を見通して、子どもたちと活動内容及び目標や意味等を共有することによって、主体的に活動できるための環境設定を行うようにします。教育委員会は、授業づくりにおいて、各学校に寄り添い、伴走支援をしていきます。
- ・（学び合う）「活動する」段階において、子どもたちが考える時間や子ども同士で学び合う時間を確保できるようにします。また、一人一人が自分の考えを共有したり、表現したりする機会を設定します。子どもたちが学び合う場面では、一人一台端末などの ICT 機器を活用し、協働的な学びを推進していきます。教育委員会は、授業における ICT の活用をさらに図っていくための研修の機会や効果的な活用事例の情報共有等を行っていきます。
- ・（学びとる）「振り返る」段階において、子どもたちが今日の授業で「自分は何が分かり、何ができるようになったのか」を実感できるように、授業の中で確実に時間を確保していきます。